

前がん病変とは何か：新概念の提案

前がん病変とは何でしょうか。多くの臓器で前がん病変と呼ばれる状態があります。子宮頸部の異形成、皮膚の日光角化症、舌の白板症、潰瘍性大腸炎、バレット食道、肝硬変などがよく知られています。WHOは正常組織よりもがんを発生しやすい、形態学的に変化した組織と定義しており、漠然と放置するとがんが発生する状態と考えられていました。しかし、私たちは多くの臓器のがんの発生母地や前がん病変の研究から、前がん病変を含めた前がん状態を「テロメアが短く染色体の不安定性のある状態で、形態学的異常の有無は問わない」と定義することを以下の我々の原著論文の中で提案しています。

以下、がんや前がん病変とそれらの発生母地に関する論文の一覧表です。

○印は我々の原著論文

形態異常のある病変（いわゆる前がん病変）でテロメアが短い

1. 潰瘍性大腸炎 O'Sullivan JN et al. Nat Genet 2002
2. 子宮頸異形成 Meeker A et al. Clin Cancer Res 2004
- 3. バレット食道 Shiraishi H et al. Scan J Gastroenterol 2009
4. 肝硬変、慢性肝炎 Kim H et al. Hepatology 2009
- 5. アルコール症食道 Aida J et al. J Pathol 2011
- 6. 口腔内白板症 Aida J et al. J Oral Pathol Med 2012*
- 7. まだら食道 Aida J et al. PLoS One. 2013
- 8. 膀胱乳頭腫 Izumiyama-Shimomura N et al. Urol Oncol 2014
- 9. 皮膚日光角化症 Ikeda H et al. Hum Pathol 2014 **
- 10. 膀胱上皮内腫瘍(PanIN) Matsuda Y et al. PLoS One. 2014***

いわゆる前がん病変の背景（形態異常のない発生母地）でテロメアが短い

- 1. 口腔内白板症の発生母地 Aida J et al. J Oral Pathol Med 2012*
- 2. 皮膚日光角化症の発生母地 Ikeda H et al. Hum Pathol 2014 **
- 3. 膀胱上皮内腫瘍(PanIN)の発生母地 Matsuda Y et al. PLoS One. 2014***

形態異常のないがんの背景（発生母地）でテロメアが短い

- 1. 食道上皮内がんの発生母地 Takubo K et al. J Pathol 2010
- 2. 口腔上皮内がんの発生母地 Aida J et al. Eur J Cancer 2010
- 3. 膀胱がんの発生母地 Matsuda Y et al. PLoS One. 2014***

*同一論文 **同一論文 ***同一論文

東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学研究チーム

相田 順子、田久保 海蒼

<http://www.ttaggg-rtgp.org/>